

<2017年9月>

## 「平成の時代」幕を閉じるが

国保連合会囑託 ひがしだ ふみお  
東田 文男



平成元年は西暦では何年になるのでしょうか？ 生年月日を聞かれたら、あなたは元号で答えますか、それとも西暦ですか？ 昭和 25(1950)年生まれの私にとって、元号と西暦間の「頭の変換」がスムーズにいかず、手帳などの年齢早見表にお世話になっているのが現状だ▼天皇陛下の退位をめぐり 30年近くになる「平成の時代」が幕を閉じようとしている。来夏にも新しい元号が公表されるとも言われている。「団塊の世代」に近い当方はニューファミリーともいわれたが、元号は単なる時代区分というのではなく身体に根付いた時代感覚でもある▼

祖父母や両親の「明治」「大正」は、もう歴史の対象として彼方のほうに行ってしまった感じがするが、いざ自分の生まれた年を年齢早見表で確認すると、ずいぶんと遠く

へ追いやられてしまっているのではないか。嗚呼(ああ)、馬齢を重ねてしまったと痛感する▼「平成の時代は、どんな時代だったのか」。新聞をはじめメディアの間では、改元を前に平成の総括が始まった。平成生まれの人たちは、消えていく「平成」にどんな思いを抱いているのだろうか▼昭和の時代が、戦争と復興、高度経済成長、バブルの崩壊などとするなら、平成の時代はどんなイメージであろうか。



地震などの大災害、グローバルズム、情報革命、格差社会といった言葉が浮かぶが、いかがであろうか▼平成の世代にとっては、昭和の世代の「ツケ」ばかりを回されたとの思いが強いかもしれない。団塊の世代がすべて 75 歳になり、社会保障費が膨張する「2025年問題」などはその一つだ

ろう。そして今、平成後の未来を担う小学生たちが地下鉄の車内で、わが国へのミサイル落下についての懸念を真顔で話す姿が見られる平成 29(2017)年である。